



九州のリーディング都市・福岡の 《いま》・《むかし》、そして《未来》への挑戦

パブリック・アクセス誌『フォーラム福岡』編集事務局
株式会社プロジェクト福岡
近藤 益弘

1. 福岡/九州の新ランドマークとなった博多駅

颯爽と行き交うビジネスマン・ウーマン、土産物を抱えた観光客、国際色を放つ外国人・留学生、微笑ましい家族連れ……。駅ビルの商業スペースで国内最大級のJR博多駅ビル『JR博多シティ』は 3 月のオープン以来、福岡／九州の新たなランドマークとして多彩な賑わいのシーンをみせる。JR博多シティは、開業 3 ヶ月間(3 月 2 日～6 月 1 日)で目標比 1.9 倍の 1726 万人が来場した。なかでも九州初出店となった博多阪急には訪問者の 6 割強となる 1053 万人が来館して、開業 3 ヶ月間の売上高は計画額を 8% 上回る 110 億円を記録した。

一方、新装JR博多駅への乗り入れで全線開業した九州新幹線・鹿児島ルートは、全線開業前日・3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響で当初の客足は伸び悩みをみせた。その後、九州新幹線・鹿児島ルートは着実に客足を伸ばして、開業 3 ヶ月間(3 月 12 日～6 月 11 日)の利用実績で博多～熊本が前年同期の在来特急比 35%増の 218 万 7 千人、熊本～鹿児島中央は同 62%増の 129 万 3 千人に達し、《九州の大動脈》としての存在感をみせる。

2. 2025 年まで人口増続く《若い都市》《学生のまち》・福岡

九州のリーディング都市としてヒトやモノが集まる福岡市は、2025 年まで人口増加の見込みだ。今年 6 月、推計人口で京都市を抜いた福岡市は 2025 年時点で 148 万人となり、神戸市も抜いて全国の大都市中で 6 位になる(国立社会保障・人口問題研究所推計)。福岡市は卸・小売や飲食、物販などの第三次産業従事者の割合が 86.8%(2009 年経済センサス基礎調査)と高く、商業・サービス特化型都市だ。産業構造として雇用創出機会も多く、結果的に九州一円から就職や異動などで福岡市へ移り住むケースも多い。

人口増が続く福岡市は、《若い都市》でもある。福岡市の平均年齢は 40.3 歳(2005 年国勢調査)と、政令指定都市では川崎市と並んで最も若い。年齢構成は現役世代(生産年齢人口)や子ども世代(年少人口)の割合が高く、お年寄り世代(老年人口)の割合が低く、東京・名古屋・大阪の 3 大都市に比べて、《高齢化が遅い》都市ともいえる。

福岡市が《若い》要因として市内に 11 大学・8 短大がキャンパスを構え、7 万 7 千人の学生(2010 年文部科学省学校基本調査)が学ぶ《学生のまち》という面も見逃せない。市内人口に占める学生の割合は 5.3%と、京都市、東京都区部に次ぎ全国 3 位だ。

目の前に博多湾が広がり、背後を山々の緑に囲まれた豊かな自然に恵まれ、『楽・住・職』がコンパクトにまとまった便利で快適な福岡市は、「生活の場としての総合的な魅力が大きい」(藻谷浩介著『実測！ニッポンの地域力』)こともあり、

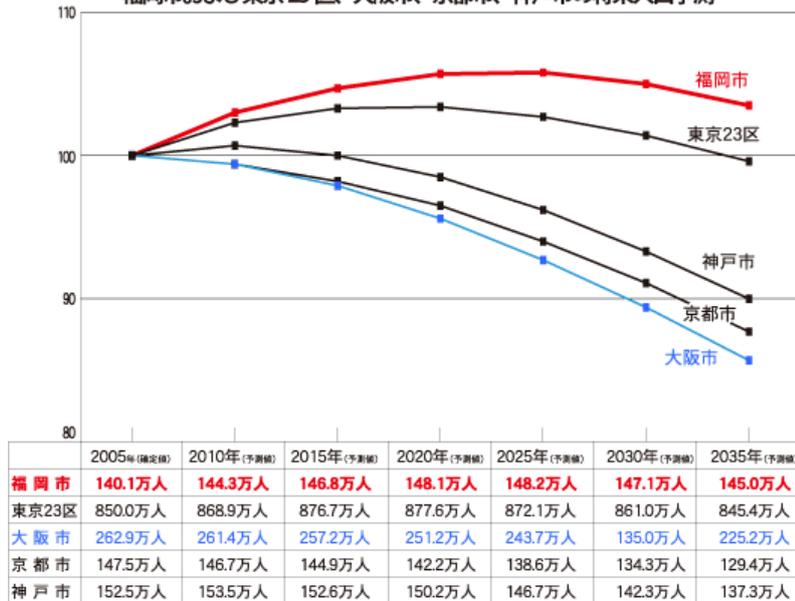
その後背地である九州一円から福岡市へ仕事や買い物、イベントなどでヒトが集まり、そして進学や就職で移り住むことで、まちとしての賑わいや活気をみせている。

3. 2000 年の歴史にみる福岡・博多の地域性と気質

古くは『奴国』や『那の津』などと呼ばれていた福岡市は、2000 年の歴史をもつ港湾都市だ。天平宝字 3(759)年、『続日本紀』に初めて登場した『博多』の地名は「土地博く、物産多し」に由来とする説もあり、古来ヒトが行き交い、モノの往来が活発な土地だった。

お茶、うどん、そば、まんじゅう……。これらの日頃なじみ深い品々は、博多を発祥として全国へ伝わった。建久 6(1195)年に日本で最初の禅寺である聖福寺を創建した栄西は、宋から帰国後にお茶を日本国内に広めたといわれている。一方、勇壮な夏祭りとして知られる博多祇園

福岡市および東京 23 区、大阪市、京都市、神戸市の将来人口予測



大都市の大学及び短期大学の概況

都市名	学生・学校数			学生数(単位:人)			推計人口(単位:人) 2010年9月1日現在	人口に占める学生の割合
	総数	大学	短大	総学生数	大学生	短学生		
都市名	総数	大学	短大	総学生数	大学生	短学生	推計人口(単位:人) 2010年9月1日現在	人口に占める学生の割合
京都市	37	25	12	14万0014	13万5237	4777	146万4592	9.6
東京23区	129	93	36	51万3144	49万5880	1万7264	883万9097	5.8
福岡市	20	11	9	7万7583	7万2717	4866	145万8063	5.3
仙台市	13	10	3	5万0455	4万9417	1038	103万5651	4.9
神戸市	26	21	5	7万2319	7万0304	2015	153万8245	4.7
岡山市	11	8	3	2万9348	2万7902	1446	70万5145	4.2
名古屋市	23	16	7	9万2238	8万9154	3084	225万8248	4.1
相模原市	5	3	2	2万6652	2万5649	1003	71万3885	3.7
千葉市	13	9	4	2万8646	2万7262	1384	95万9357	3.0
札幌市	22	14	8	5万6587	5万2921	3666	190万8913	3.0
広島市	18	13	5	3万3474	3万1159	2315	117万2823	2.9
新潟市	12	7	5	2万2285	2万0690	1595	81万1789	2.7
北九州市	13	9	4	2万3204	2万1614	1590	98万1462	2.4
横浜市	18	12	6	8万4628	8万2421	2207	367万9488	2.3
川崎市	7	4	3	3万2600	3万1358	1242	141万7944	2.3
静岡市	7	4	3	1万5642	1万4289	1353	71万6266	2.2
堺市	9	6	3	1万2497	1万1538	959	83万8928	1.5
浜松市	7	6	1	1万1007	1万1007	289	80万8192	1.4
さいたま市	6	4	2	1万6209	1万5596	613	121万8431	1.3
大阪市	19	11	8	3万2263	2万8045	4218	266万6693	1.2

出所)2010 年学校基本調査、福岡市総務企画部企画調査部調査統計課調べ

山笠が発祥した承天寺の境内に『鯉鮓蕎麦発祥之地』の石碑が建つ。仁治 2(1241)年に宋から帰国して博多に上陸した円爾(聖一国師)は承天寺を開山、持ち帰った製粉技術を用いて粉物の食文化を日本にもたらしたとされる。

多くの文物が大陸から海を経て博多を窓口に入って来たわけだが、「いまなお街全体が強烈な好奇心に満ちているといった印象を受ける。そして、これは、博多が港町であったことに由来しているのでないかと、私は思えてならない」(岩中祥史著『博多学』)と指摘する声もある。古来、俎上に上がる福岡／博多の《開けっ広げ》(開放的)な気質は、博多の地において長年の歴史と文化が織り成しながら、培ってきた産物と考えられる。

4. 海外からも評価される FUKUOKA の底力

日本政府観光局(JNTO)が2010年11月に発表した『都市別国際コンベンション統計』によると、福岡市で2009年に開催された国際会議件数は前年比20%増の206件で、全国2位に躍進した。福岡市での国際会議の半分近くは大学主催で、さらにアジア関連が全体の約3分の1を占める。福岡市で国際会議が多い理由として、市内に大学が多いことに加え、アジアからの直行便が数多く就航する福岡空港が市街地にあり、さらにホテルや国際会議場などの関連施設が充実している点などが挙げられる。

「海山が近くにあり、恵まれている、世界に広く知られていない都市があったのか」——。世界50カ国の都市開発の専門家が集う『都市開発国際協会(INTA)』は2009年4月、福岡市で都市開発や経済開発のワークショップである福岡都市フォーラムを開いた。開催に先立ちINTAメンバーは福岡市内に滞在、各所を視察して、前述の感想を寄せた。

シアトル、バルセロナ、バンクーバー、メルボル、ヘルシンキ、ミュンヘン、ストックホルム、大田、ダブリン、そして福岡——。知識経済を志向する世界10の地域で構成する『国際地域ベンチマーク協議会』の第3回総会である国際知識経済都市会議が2010年7月、福岡市で開催された。会議では都市単体でなく、都市圏などの地域を主体に産学官が一体となって取り組んでいくことの重要性が強調された。

世界の都市総合カランキング
森記念財団都市戦略研究所2010年

順位	都市名
1位	ニューヨーク(322.6)
2位	ロンドン(313.6)
3位	パリ(303.1)
4位	東京(300.3)
5位	シンガポール(244.2)
6位	ベルリン(232.9)
7位	アムステルダム(230.8)
8位	ソウル(223.8)
9位	香港(223.8)
10位	シドニー(219.0)
11位	ウィーン(217.4)
12位	チューリッヒ(215.0)
13位	フランクフルト(212.3)
14位	ロサンゼルス(210.7)
15位	マドリード(208.8)
16位	バンクーバー(208.4)
17位	コペンハーゲン(206.3)
18位	大阪(205.6)
19位	ジュネーブ(205.4)
20位	ボストン(203.3)
21位	ブリュッセル(202.9)
22位	サンフランシスコ(202.4)
23位	トロント(199.5)
24位	北京(199.2)
25位	シカゴ(197.3)
26位	上海(196.9)
27位	ミラノ(184.2)
28位	福岡(181.9)
29位	台北(176.6)
30位	クアラルンプール(169.9)
31位	バンクーバー(169.6)
32位	モスクワ(159.3)
33位	サンパウロ(159.2)
34位	ムンバイ(145.3)
35位	カイロ(137.6)

「世界で最も住みやすい都市」
『MONOCLE』誌 2011年版ランキング

順位	都市名	前年順位
1位	ヘルシンキ※	5位
2位	チューリッヒ	3位
3位	コペンハーゲン	2位
4位	ミュンヘン※	1位
5位	メルボルン※	9位
6位	ウィーン	8位
7位	シドニー	12位
8位	ベルリン	11位
9位	東京	4位
10位	マドリード	10位
11位	ストックホルム※	6位
12位	パリ	7位
13位	オークランド	20位
14位	バルセロナ※	17位
15位	シンガポール	21位
16位	福岡※	14位
17位	香港	圏外
18位	ホノルル	22位
19位	ポータルランド	11位
20位	バンクーバー※	16位
21位	京都	23位
22位	ハンブルグ	24位
23位	リスボン	25位
24位	モントリオール	19位
25位	シアトル※	圏外

※は国際地域ベンチマーク協議会のメンバー

これらの国際会議を開催した福岡市を巡っては、世界的なライフスタイル情報誌『MONOCLE』による『世界で最も住みやすい都市 TOP25』2011年版で世界16位にランクインする。また、森記念財団都市戦略研究所が2010年10月に発表した『世界の都市総合力ランキング』では世界の主要35都市中30位だった。さらに『News week』誌(2006年7月3・10日号)では世界の主要国で急成長を遂げる『最もホットな10都市』に選ばれるなど、内外からの注目も高い。

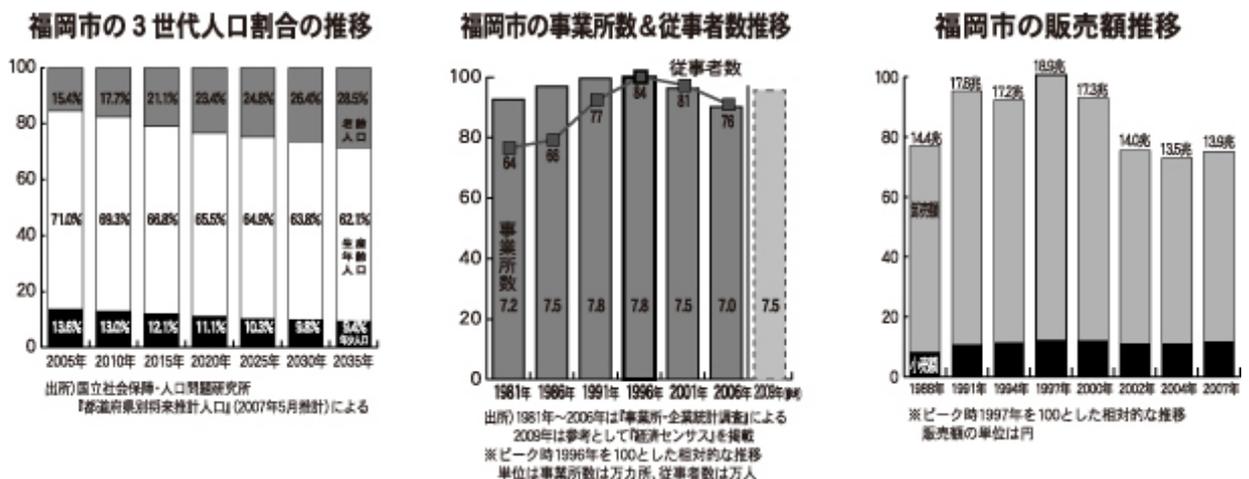
5. 未来戦略づくりや巨大実験施設の誘致に産学官で取り組む

- 事業所数 : 96年・7万8千事業所 ⇒ 2006年・7万事業所
- 従業員数 : 96年・84万人 ⇒ 2006年・76万人
- 年間販売額: 97年・18兆9千億円 ⇒ 2007年・13兆9千億円

一見活況を呈する福岡市だが、その一方で将来的な課題を色々抱えているのも事実だ。

福岡市の事業所数、従事者数、年間販売額は1990年代半ばをピークに減少傾向にある。また、福岡市の人口は2025年まで増加する見通しだが、現役世代である生産年齢人口をみると、2010年の100万人をピークに2015年・98万人、2020年・97万人、2025年・96万人と減少の一途を辿る。つまり、今後福岡市の人口は増加しても、お年寄り世代が増えるのみだ。

こうしたなか、昨年7月の『国際知識経済都市会議』での議論を踏まえ、さらに国土交通省が提唱する広域連携に向けた民間団体への支援構想も背景にして、産学官の連携組織として『福岡地域戦略推進協議会(通称Fukuoka D.C.)』が今年4月に発足した。同協議会では、福岡都市圏の《強み》などを地域診断して、持ち得る資源を集中投入していくことで国際競争力を高めて、福岡地域の持続的な成長を下支えしていく『シンク&ドゥタンク』として活動していくとする。今後、海外の専門機関と提携した国際ワークショップの開催や実践的な人材育成にも取り組んでいく考えだ。



6. 夢の巨大実験施設の誘致に向けていま、動き出す

新博多駅ビルのオープンと九州新幹線・鹿児島ルート of 全線開通で一区切りがついた福岡/九州にとって、次なる大型プロジェクトのひとつとして、宇宙誕生の謎に迫る巨大実験施設『国際リニアコライダー』が挙げられる。

国際リニアコライダーは、電子と陽電子を光速で正面衝突をさせて、宇宙誕生と同様の状態をつくり出す全長 40 キロの次世代型直線加速器だ。衝突時の素粒子を観測していくことで物質生成の秘密を解き明かして、最先端医療やナノテクなどの先進分野に応用していく構想である。同施設を国内に誘致していく上で有力候補地が、福岡県・佐賀県境の背振山系だ。福岡県、佐賀県では今年度から誘致に向けた地質調査に乗り出す。

建設費 8 千億円を見込む国際リニアコライダーは、完成後に国内外から 2 千人もの研究者が常駐する見通しだ。現在、フランス・スイス国境に位置する全周 27 キロの世界最大級である加速器実験施設・CERN は、サッカーワールドカップと同程度の経済波及効果係数があり、国際リニアコライダーの経済効果としては 2 兆円超と推計される。

今後、日米欧で展開される熾烈な誘致合戦において、福岡/九州の産学官による取り組みで成功すれば、福岡という都市が飛躍的に変貌していくことは間違いない。産業・経済における商業サービス化・高度情報化という『天の時』に加えて、古来交流があったアジア地域での急激な経済発展という『地の利』も踏まえながら、九州のリーディング都市・福岡市が今後、産学官による『人の和』で都市力・地域力をどのように発揮していくか。その戦略的な取り組みの如何に福岡/九州の未来が、大きく掛かっている。

■参考：『フォーラム福岡』について

「地域プロジェクトの推進に向けて、テーマ毎に内容を検証しながら、企業・団体・市民の意見も聴取して、企業の経営改善策や行政の施策決定に寄与していく」——。2004 年春、地元・福岡の行政と経済界の一部から挙げた声を端緒に産学官による協働事業として創刊された。《福岡/九州の未来をデザインする》をコンセプトとしている。隔月刊、現在発行号で 37 号を数える。ホームページ (<http://www.forum-fukuoka.com/>) からバックナンバーの購入が可能。

■筆者略歴

1966 年 7 月生まれ、福岡県八女市出身、福岡大学経済学部卒。地場経済誌『ふくおか経済』（地域情報センター発行）を皮切りに、ビジネス情報誌『フォー・ネット』（フォーネット社発行）などを手掛け、現在は産学官協働によるパブリック・アクセス誌『フォーラム福岡』（プロジェクト福岡発行）の企画・取材・編集・製作などに取り組む。

発行元・問合せ先 公益財団法人都市活力研究所
〒530-0001 大阪市北区梅田 1-12-39 新阪急ビル 9 階
TEL 06-6344-2665/FAX 06-6344-2668